



本村幼稚園 3月の園だより

平成30年2月28日

港区立本村幼稚園長

山村 登洋

新しい世界へ「はじめの一步」

園長 山村 登洋

平成29年度の歩みもあと今月を残すだけとなりました。この1年間で本村幼稚園のお子さん一人一人が大きく成長することができたと思います。

年少のりす組は、年長として新しい1年を迎える準備の時、年長のはと組は小学校への旅立ちの時でもあります。今まで慣れ親しんできた幼稚園という環境から新しい仲間との出会いへと向かっていきます。園で経験してきたうれしい事、楽しい事、悲しい事、苦しい事等一つひとつが、みんなの宝物です。大切な思い出の日々を幼稚園で過ごしてきたのです。出会った友達、仲間そして先生たちとの大切な心の交わりが、一人一人に大きな世界を経験させてくれたと思います。これから歩み出そうとしている道は、さらに広く大きな世界です。自分だけという狭く小さな世界から自分のまわりもという大きな世界へと広がって行くのです。そこには、期待や希望、喜びがあると同時に不安や時には悲しみもあるのです。



その中であって、自分というかけがえのないたった一つの存在を大切に、それぞれが輝いてほしいと願っています。広く大きな世界に出ていく時、人は成長します。人それぞれによって価値観が異なり、基準も違います。また、環境によって変わるものに左右されず、

自分というものを大切に思い、周りの人にも喜びを与えられる存在になってほしいと願います。

子供の成長は一人一人異なります。その子なりの成長を探し、認めてあげてください。すべてを認めてあげることで子供の自己有用感も大きく育ちます。

最後に子どもたちとの出会いの中で、子どもたちの笑顔は、わたしの心を支え、豊かにしてくれる大切な宝物となりました。これから子どもたちがそれぞれの持ち味を發揮しながら子どもらしく新しい世界へ「はじめの一步」を踏み出してほしいと願っています。今後も大切な日々を子どもに寄り添い共に歩んでゆければ幸いです。



<元オリンピック新体操の選手と一緒に・「ゆめをあきらめない！」>

「私と小鳥と鈴と」

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面(じべた)を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

